

# 設定 Media Termination Point

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[Coventions](#)

[背景説明](#)

[メディア ターミネーション ポイント](#)

[設定](#)

[コンフィギュレーション設定](#)

[Cisco IOS コンフィギュレーション MTP](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

## 概要

この資料は Media Termination Point ( MTP ) およびコンフィギュレーションの設定を記述したものです。それはまたよりよい方法でそれを説明するために設定例を提供します。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

### Coventions

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

## 背景説明

[メディア ターミネーション ポイント](#)

メディア ターミネーション ポイント ソフトウェア デバイスを使用すれば、Cisco Unified Communications Manager で、SIP または H.323 エンドポイントまたはゲートウェイ経由でルーティングされたコールを中継することができます。DTMF または RSVP の要件に基づいて、メディア ターミネーション ポイント デバイスを割り当てることができます。RSVP 用のメディア ターミネーション ポイントを割り当てた場合は、SIP や H.323 デバイスを含む任意のタイプのエンドポイント デバイス間にそれを挿入できます。

メディア ターミネーション ポイントの Cisco ソフトウェア アプリケーションがソフトウェアのインストール プロセス中にサーバにインストールされます。メディア ターミネーション ポイント デバイスを設定するサーバ上で Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにして開始する必要があります。

データベースで定義されたすべてのメディア ターミネーション ポイント デバイスがメディア リソース マネージャ (MRM) に登録されます。MRM は、システム内で使用可能なメディア ターミネーション ポイント デバイスの合計台数と使用可能なリソースを備えたデバイスを追跡します。

リソースの予約中に、MRM がリソース数を決定し、メディア リソース タイプ (この場合は、メディア ターミネーション ポイント) と登録されたメディア ターミネーション ポイント デバイスの位置を特定します。MRM は、その共有リソース テーブルを登録情報で更新し、登録された情報をクラスタ内の他の Cisco Unified Communications Manager に伝播します。

メディア ターミネーション ポイントとトランスコーダを同じ Cisco Unified Communications Manager に登録できます。詳細については、「トランスコーダの設定」の項を参照してください。

各メディア ターミネーション ポイントは、登録先の Cisco Unified Communications Manager のリストをプライオリティ順に受信します。メディア ターミネーション ポイントは、一度に 1 つの Cisco Unified Communications Manager にしか登録することができません。

## 設定

この項では、このドキュメントで説明する機能の設定に必要な情報を提供します。

注: このセクションで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) (登録ユーザ専用) を使用してください。

## [コンフィギュレーション設定](#)

表 1. Media Termination Point コンフィギュレーションの設定

フィールド	説明
デバイス情報	
IP アドレス サーバ	<IP Address MoH-Server>
名前	MTP_X
説明	MTP_<IP Address MoH Server>
Device Pool	デフォルト
Trusted Relay Point (信頼されたリレー ポイント)	非選択

表 2. Cisco IOS Media Termination Point コンフィギュレーションの設定

フィールド	説明
IOS トランスコーダ情報	
トランスコーダ タイプ	Cisco IOS 拡張ソフトウェア メディア ターミネーション イント
説明	<Location> <Streetname>
Device Name	MTP_<IOS Router hostname>
Device Pool	デフォルト
Trusted Relay Point ( 信頼されたリレー ポイント )	非選択

## [Cisco IOS コンフィギュレーション MTP](#)

次に、トランスコーダと会議メディア リソースのサンプル ルータ IOS コンフィギュレーションを示します。

### メディア リソース コンフィギュレーション

```

!
voice-card 0 dspfarm dsp services dspfarm codec complexity flex

!
ip cef
no ipv6 cef
!
!To enable Cisco Express Forwarding for IPv6, use the ipv6 cef command in global configuration
mode. To disable Cisco Express Forwarding for IPv6, use the no form of this command.
!!Set of Conferencing/Transcoding commands when used with PVDm2-XX DSPs: sccp local gig 0/0
sccp ccm <primary CUCM IP for this Cluster> identifier 1 version <latest CCM version> sccp ccm
<secondary CUCM IP for this Cluster> identifier 2 version <latest CCM version> sccp ! dspfarm
profile 11 transcode description ***** Transcoder <Cluster Name> ***** maximum sessions <max.
Number of Sessions> associate application SCCP no shut dspfarm profile 22 conference description
***** Conferencing <Cluster Name> ***** maximum sessions <max. Number of Sessions> associate
application SCCP no shut dspfarm profile 33 mtp description ***** Media Termination Point
<Cluster Name> ***** no codec g711ulaw codec g729br8 codec pass-through maximum sessions
software 500 associate application SCCP no shut sccp ccm group 999 bind interface gig 0/0
associate ccm 1 priority 1 associate ccm 2 priority 2 associate profile 33 register MTP_<IOS
Router hostname> associate profile 22 register CFB_<IOS Router hostname> associate profile 11
register XCD_<IOS Router hostname> exit

```

## 確認

[Cisco CLI アナライザ \( 登録ユーザ専用 \)](#) は、特定の **show** コマンドをサポートしています。  
**show** コマンド出力の分析を表示するには、Cisco CLI アナライザを使用します。

- SCCP を示して下さい
- dspfarm をすべて示して下さい

## トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。